

# 令和4年第8回経済財政諮問会議

## 第9回新しい資本主義実現会議

### 議事要旨

#### (開催要領)

1. 開催日時：令和4年6月7日（火）17:03～17:44
2. 場 所：総理大臣官邸2階大ホール
3. 出席者：

岸田	文雄	内閣総理大臣
松野	博一	内閣官房長官
山際	大志郎	内閣府特命担当大臣（経済財政政策） 兼 新しい資本主義担当大臣
金子	恭之	総務大臣
鈴木	俊一	財務大臣
萩生田	光一	経済産業大臣
後藤	茂之	厚生労働大臣
黒田	東彦	日本銀行総裁
十倉	雅和	住友化学株式会社代表取締役会長 兼 日本経済団体連合会会長
中空	麻奈	BNPパリバ証券株式会社 グローバルマーケット総括本部副会長
新浪	剛史	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長
柳川	範之	東京大学大学院経済学研究科教授
翁	百合	株式会社日本総合研究所理事長
川邊	健太郎	Zホールディングス株式会社代表取締役社長
櫻田	謙悟	経済同友会代表幹事代表取締役社長
澤田	拓子	塩野義製薬株式会社取締役副社長 兼 ヘルスケア戦略本部長
渋谷	健	シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
諏訪	貴子	ダイヤ精機株式会社代表取締役社長
富山	和彦	株式会社経営共創基盤グループ会長
平野	未来	株式会社シナモン代表取締役社長CEO
松尾	豊	東京大学大学院工学系研究科教授
三村	明夫	日本商工会議所会頭
村上	由美子	MPower Partners GP, Limited. ゼネラル・パートナー
米良	はるか	READYFOR 株式会社代表取締役CEO
芳野	友子	日本労働組合総連合会会長
黄川田	仁志	内閣府副大臣

## (議事次第)

### 1. 開 会

### 2. 議 事

(1) 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 (案)

(2) 経済財政運営と改革の基本方針 2022 (案)

### 3. 閉 会

## (説明資料)

資料 1	新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 (案)
資料 2	洪澤委員提出資料
資料 3	内閣総理大臣からの諮問第 47 号について
資料 4 - 1	経済財政運営と改革の基本方針 2022 (案)
資料 4 - 2	経済財政運営と改革の基本方針 2022 (案) 概要

## (概要)

(山際議員・新しい資本主義担当大臣) ただ今から、経済財政諮問会議と新しい資本主義実現会議の合同会議を開催する。

本日は、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」と「経済財政運営と改革の基本方針2022」、いわゆる「骨太方針2022」について議論いただく。

### ○「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 (案)」

(山際新しい資本主義担当大臣) 最初の議題、5月31日に第8回新しい資本主義実現会議に付議した「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)について、与党における調整が終了した案を、黄川田内閣府副大臣から説明する。

(黄川田内閣府副大臣) 資料1、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)について、5月31日の前回第8回新しい資本主義実現会議以降の主な変更点を説明する。

8ページ、NISAについて、抜本的な拡充を図る旨を明確化するため、表現を変更。

8ページから9ページにかけて、出世払い型奨学金の本格導入について、基本的な考え方をより具体化。

15ページ、スタートアップ育成について、まずは実行のための司令塔機能を明確化する旨を分かるようにするため、表現を変更。

22ページ、自動車のGXについて、電動車の定義を明確化するため、「いわゆる電動車(電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車及びハイブリッド自動車)」と追記。

34ページ、文化芸術・スポーツ振興が重要であるため、その項目を新たに追記。

(山際新しい資本主義担当大臣) それでは、有識者委員から、順に御発言いただく。

(翁委員) 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)に賛同する。

特に、今回は、「人への投資」、科学技術や、スタートアップ、DX(デジタルトランスフォーメーション)・GX(グリーンデジタルフォーメーション)への投資が主要政策に掲げられている。いずれも重要であり、日本経済がダイナミズムを取り戻し、付加価値生産性を向上させ、持続的成長を実現するために不可欠。

また、これらの取組が賃金の上昇や男女賃金格差などの是正につながり、多様な人々が安心して活躍できるインクルーシブな社会に変わることを提言していることも重要。この実行計画を実効性のあるものに具体化し、実現していただきたい。

また、この実行計画は、政府だけでなく民間企業や投資家、項目によっては個人レベルで理解してもらうことが必要。その意味では、政策実現に当たってどのように説明すれば企業や人々に働き掛けられるか、行動経済学的視点も入れながら検討し、分かりやすい説明をお願いしたい。

これからの数年間は日本の将来を決める大事な時期であり、スピード感を持って改革を行い、政策を推進することを期待する。

(川邊委員) 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)の与党内での議論を踏まえた修正箇所について説明をいただいたが、内容がより強化され、より多くの人に適用された内容であったため、特に異論はない。

先週末、私は「B Dash Camp」というスタートアップイベントに、メインスピーカーとして参加し、数百のスタートアップ企業の前で、「新しい資本主義実現会議の実行計画にもスタートアップ支援が重点的に盛り込まれている。いよいよ皆さんが日本経済の成長を担う時代。日本の未来は明るい」という話をした。正直、スタートアップの人たちは新聞を読んでいない人が多く、この重点計画にそれらが盛り込まれているという認識をその時に初めて持った人たちも多かったため、大変盛り上がった。鉄は熱いうちに打てということで、是非ともスタートアップ支援の具体策を迅速かつ着実に優先順位を上げて実行していただきたい。日本の経済成長は、そういった支援を受けたスタートアップ企業を含め、民間が主体的に担っていく。

(櫻田委員) まずは、この「新しい資本主義の実行計画及びグランドデザイン」の策定に御尽力いただいた皆様に感謝申し上げたい。

その上で一点、戦略や計画は、企画以上に実行が重要であり、実現にこだわらなければならない。そして、その実行と実現には国民の共感と熱量が必須。その意味では、新しい資本主義は、本日スタート地点に立ったのであって、官民双方が変革への強い覚悟を持って国民に訴えていくことが重要。

これまでも成長戦略には詳細な工程表やKPIが附属されていたが、政策過程に詳しくない普通の国民には複雑過ぎて、進捗や達成状況が見えてこない。継続性の観点から多くの施策が翌年の工程表に引き継がれるが、時々的重要テーマに伴って整理の仕方が変わるため、前年との違いや進捗の検証がやや難しい面がある。そのため、今回の実行計画では、総理が最も重視するアジェンダのKPIは毎回の会議で進捗を報告するなど、国民から見て分かりやすく、透明性の高いシンプルなPDCAサイクルを構築してはどうか。

国民を巻き込み、誰もがわくわくする新しい資本主義が実現することを期待するとともに、私も一経営者として、実行・行動を通じて民間企業の責任を果たしていきたい。

(澤田委員) 今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)は、

社会課題を成長の機会と捉え、中長期的視点に立ったマルチステークホルダー重視経営を誘導することにより、「人への投資と分配」や、社会全体の成長をもたらそうとし、将来に向けて非常に重要な方向性が盛り込まれているため、心から支持したい。

しかしながら、過去から課題として継続しているような項目も存在しており、加えて非常に広範囲かつ網羅的に重要案件が含まれているため、今後、優先順位付けを行って、着実に実行し、定着させていくことが非常に重要。

中でも、地政学的リスクや、パンデミックなどを考慮した経済安全保障の観点から、既に強化がうたわれているエネルギー・食品・半導体・医薬品なども含めた重要物資や、その原料・材料も含めたサプライチェーンの確立、イノベーションから成長を促す人材育成を含めたエコシステムの確立、企業に中長期的視点での経営を促す施策対応、評価方法の確立を優先して、具体的に進めていただきたい。

関西においても、今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」を第一歩として受け止め、周知を図るとともに、今後とも継続的議論を求め、調査・提言活動を行うとともに、研究開発の強化、賃金の引上げやパートナーシップ構築宣言の趣旨にのっとった取引適正化の促進について進めていきたい。

(洪澤委員) 今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)を読み直して、改めて感じたことがある。今までの政府の総合的な経済政策で使われていなかった表現が数か所掲載されている。それは、「インパクト」という表現。これは、社会的課題・環境的課題を解決しながらも、きちんと経済的リターンを上げることで、正に新しい資本主義は、新しい時代に必要な誰一人取り残さない包摂性があるインクルーシブな資本主義だということが確認できた。

是非とも、これを、世界をリードするという意気込みで、T I C A D (アフリカ開発会議) 及び様々な世界の舞台で総理から世界に発信していただきたい。

新しい資本主義を実行するために必要なものはもちろん財源だが、新しい資本主義とは政府が民間の代わりとなるものではないと理解。政府の役割はあくまでも新しいお金の流れを創ることであり、そういう意味で、資料2に何点か今後のフォローアップとして是非とも検討していただきたい事項を記載しているため、是非ともよろしく願いたい。

(諏訪委員) 昨年、第1回新しい資本主義実現会議以来、7か月強にわたり、岸田総理をはじめ、皆様と新しい資本主義の在り方について意見交換するという貴重な機会を賜り、感謝申し上げたい。

昨年来、中小企業経営者として賃上げなど待遇改善を行いつつ、社員と共に未来に夢を抱き、社員がいきいきと働ける企業を目指すという信念に基づき、付加価値向上に資する取引価格の適正化やデジタル化の伴走支援、魅力的な製品・サービスを生み出すイノベーション支援、経営者保証の解除などについて述べてきた。今般、中小企業を力強くサポートする施策を多数盛り込んでいただき、感謝。

この新しい資本主義実現会議のおかげだが、最近、とある信用金庫から、「中小企業は日本の経済を支える重要な役割を担っており、信用金庫業界としてもより一層中小企業を応援します」と直接話を伺い、大変嬉しく感じた。

結びに、皆様の英知を結集して策定される「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」がスピーディーに実行され、大きな成果が上がることを心から期待している。

(富山委員) 基本的な背骨の部分として、洪澤委員が発言されたように、包摂性とい

う言葉はこの後重要なキーワードとなる。これは様々な意味で、世界に対する新しさはそこに非常に収斂する。そこを是非ともよろしく願いたい。

本日、ソニー株式会社元社長・会長・CEOの出井伸之さんがお亡くなりになったという非常に悲しい知らせがあった。出井さんは、当時の主流経済人の中では彼だけだったのではないかと思うが、25年前にデジタル時代の到来を発言された。さらに、ソニーを変えようと尽力した方で、25年掛けて、ソニーは明らかに変わった。その時に、もし100人の主流な経済人が同じことをやっていたら、今は大分変わっていたはず。さらに、ガバナンス改革も彼が最初に取り組んでいる。同時に、出井さんはマネックスやI S A K（インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢）もそうだが、我々の経営共創基盤を作る時にも、座長役で応援してくれた。要するに、スタートアップ推進に本当に体を張ってコミットして応援してくださった。

今日の話と少しずれるが、先ほど川邊委員が発言されたように、日本の経済成長を担うのは民間であるから、我々自身が出井さんのように本気になって自分の会社を変えていく、それから若い世代を応援していく必要がある。出井さんは一人だったかもしれないが、今はここにこれだけの方がいるわけだから、このことに真剣に取り組んでいかなければならない。たまたま今日、この新しい資本主義実現会議があったということは、ある意味、出井さんの思いがこの辺にいるのかなと思っている。

（十倉委員） 経団連が掲げる「サステイナブルな資本主義」は、岸田内閣の新しい資本主義と軌を一にすると申し上げてきた。資本主義は、優れた制度であり、自由で活発な競争、効率的な資源配分、そして、イノベーションの創出などをもたらし、我が国の経済社会の大前提。しかしながら、行き過ぎた資本主義は、格差の拡大・固定化・再生産や、気候変動をはじめとした生態系の崩壊といった大きな社会課題をもたらした。

総理は、前回の第8回新しい資本主義実現会議の最後に、市場任せだけでは解決できない社会的課題をエネルギー源として捉え、「人への投資」や、GXの推進などを通じて新たな成長を図ると発言された。資本主義の課題を克服できるのは資本主義だけであり、これこそが、新しい資本主義。同時に、総理は「成長と分配の好循環」とも発言されており、成長も分配もどちらも重要。成長については、「人への投資」や、科学技術・イノベーション投資、スタートアップ振興、GX・DXの推進など、官民一体で取組を進めていきたい。また、分配については、分厚い中間層の形成を目指すべき。マイナンバーを活用した適切な給付や負担の実現など、税や社会保障について今後議論していくことが求められる。

（柳川委員） 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）を、これだけまとめられたことに、関係者の方々に深く感謝を申し上げる。私は、かなり前から「人への投資」が重要だということを申し上げており、こうした形でしっかり柱となったということは大変ありがたい。それから、皆さん、包摂性のような発言をされたが、様々な社会課題が出てきている中、これらをしっかり解決できるような人を育てていく、あるいは民間がリードして社会課題を解決していく、社会を構築していくのだからということがしっかり柱となっている点はとても重要。

ただ、当然これがすぐに実現できるわけではない。詳細なプロセスをもう少し詰めていかなければいけない。それであっても、今日・明日・来月に、すぐに実現するわけではない。新しい資本主義を創っていくのだから、ある程度時間が掛かる面も覚悟した上で、そのプロセスをしっかりと実行していくことが大事であり、ある意味で時間が掛かってでもしっかりと実行していく、実現させていくということを決意している文章であるた

め、我々としてもしっかりと実現できるように決意を持っていきたい。

(平野委員) 私は、最近、夜に寝る前に、自分に投げかけている質問がある。それは、数世代先の世代から見た時に、自分が良き祖先であったのかという質問。今日は良かったなとか、ちょっと駄目だったなとか、自己採点している。

この「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)に対して、数世代先の私たちの子孫が、私たちを良き祖先であったと感じるかは分からないが、この案に到達したということは一定の成果。「はじめに」にあるように、「資本主義を超える制度は資本主義でしかあり得ない」と現時点で言い切ったことには、歴史的意義がある。そして、それを前提にこの会議が続くのであれば、これから2つの使命を担うべき。一つ目は、短期的に実行計画の進捗を見守り、推進を支援すること。そして、二つ目は、長期的にGDPを代替する指標を模索することである。気候変動を代表とする社会課題解決と、誰一人取り残さない持続的な幸福を実現するためには、サーキュラーエコノミーやシェアリングエコノミーなどの新しいシステムの拡大は不可避だが、GDPでは測定にそぐわないことがある。新しい指標を見付けることができれば、資本主義をアップデートした、いや、資本主義を超えるシステムを創造したことで、未来から見て良き祖先であったと呼ばれるかもしれないし、そうなることを期待している。

(松尾委員) 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)は、素晴らしいものとなった。関係者の御尽力に感謝。

私は、日々、大学で、AIの研究・教育とスタートアップの育成といったことを行っていて、日々痛感していることがある。それは、若い人と新しい技術に活躍の場を与えれば、必ず成長するという。成長しないのは、我々大人あるいは社会がその成長を阻んでいるから。若い人には、素晴らしい才能がある。これは、いつの時代もそう。新しい技術にも素晴らしい可能性がある。これを期待して信頼する。これさえできれば、必ず経済は成長していく。

今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)では、人・技術・スタートアップへの投資がその中心となっており、大変素晴らしい。これが実効性を持って具体化されるように、是非ともしっかりと進めていただきたい。

(三村委員) 資本主義のバージョンアップを掲げ、社会課題解決と成長の両立により我が国経済の長期停滞の克服を目指す政策パッケージがこのように取りまとめられたことを高く評価したい。

2000年には世界第2位であった我が国の1人当たりGDPは、昨年、残念ながら第28位にまで後退。できる限り多くの国民が我が国の停滞に対する危機感を共有し、現在の苦境を変革のチャンスとすべきであり、そのための道筋が示された。後は、実行あるのみ。特に、新たな官民連携に期待したい。政府がリスクをシェアしつつ、市場の効率性を最大限に活用し、民間の投資を強力に後押ししてイノベーションを促し、経済の長期停滞から脱却する契機となることを強く望む。

また、その主要テーマである産業のGXについて、真に日本の成長につなげるためには、挑戦的で粘り強い取組と、現実的で柔軟な取組とが不可欠。我が国の自然条件の不利を逆転すべく、技術開発を加速するとともに、何度も言うが、原子力発電に関して安全最優先の早期再稼働と設備利用率向上に向けた取組をお願いしたい。

最後に、貴重な財産である過去の成長戦略のKPIを今回の計画にも的確に位置付け、総合的なフォローを継続いただきたい。

(村上委員) 今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)は、

新しく掲げられた優先分野のみならず、過去何年も日本の課題として挙げられていた分野も含まれた大変網羅的な内容となっている。

それでは、今回、何が違うかについては、大変重要な問い。この問いに対しては、日本の社会・経済を動かすOS（オペレーティングシステム）を変えたと考えるべき。つまり、バージョンアップというよりは、根本的にアップデートされた価値観に基づいた新しいOSを日本が導入し、そのOSの上で新しい資本主義を走らせるがゆえに、過去に挙がっていた課題も、今回異なったアプローチを用いて解決していくということ。アップデートされた価値観には、正に「人への投資」や多様性の重視、イノベーションがもたらす恩恵を包含的に社会が享受するということに対する理解や、その理解の重要性、包摂性の重要性、これらが含まれる。

今回の政策を分かりやすく国民に説明し、最も重要なアクターである民間企業や投資家、スタートアップを含む若い人たちが、新しい資本主義の実現に向けて希望を持つことが大変重要。私は、ベンチャーキャピタリストとして毎日多くのスタートアップの方々に会っているが、素晴らしい熱意を持っている。そういった方々の後押しをすることが、今後、私たちが頑張っていかなければいけないことである。

（米良委員） 私からは感想として、新しい資本主義実現会議の新しいと思う点を3点挙げる。

一点目、有識者メンバーのうち半数が女性であるという会議スタイル。本会議は開始20分ほど前から委員たちが集まり、井戸端会議のようになり、そこに大臣も集い、非常に和気あいあいと一体感を感じるものであった。

二点目、岸田総理のリーダーシップ。自ら壮大なビジョンを掲げながら、強引に目標を達成していくというトップダウン式のリーダーシップはもう時代遅れかもしれない。私たちの価値・人生感は多様化していて、それをトップが持つ夢一つに集約していくことは不可能。これからの時代は、それぞれの人が持つビジョンをそれぞれの方法で達成していけるような人の持つ創造力や夢などといったものが大切となるのではないか。それ以外の仕事は、デジタルやAIが担うであろう。新しい資本主義で、岸田総理は私たちのそれぞれのビジョンを聴き、成長させると言ってくださった。人それぞれの活躍の舞台を俯瞰しながら演出するという新しい資本主義のリーダー像だと思う。

三点目、社会起業家との車座で感じたこと。総理は、ホームレスの方や地方の過疎化の状況など、経済から置き去りになりそうな人たちに向き合い、若者の声を真剣に聴き、そして、その課題解決を今回の方針の中心に掲げてくださった。新しい資本主義のインクルーシブな経済は、総理が社会課題の細部まで目を届かせ、耳を傾け、そして、その声を大切に作る姿勢から実現されるものだと思う。

この会議に参加させていただき、感謝を申し上げます。

（芳野委員） 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）の5ページ、適正な賃金引上げの在り方について検討を行う旨の記載が追記されているため、一言発言させていただく。

「成長と分配の好循環」を実現するためには、記載のとおり、「人への投資」と継続した賃上げの実行が必要不可欠。とりわけ物価上昇などの局面にある中では、実質賃金を維持・向上させる努力が必要であり、こうした認識を共有した上で、経済の責任を担う政労使がそれぞれの役割を果たすことが大切。政府には、賃上げしやすい環境整備にこれまで以上に御尽力いただきたい。そして、労使は生産性向上に努力し、生産性三原則に基づいた交渉で労働条件を決定していくべき。

(山際新しい資本主義担当大臣) それでは、お手元の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(案)を最終的に新しい資本主義実現会議の取りまとめとしたいが、よろしいか。

(「異議なし」と声あり)

(山際新しい資本主義担当大臣) それでは、お手元の案で取りまとめる。

○「経済財政運営と改革の基本方針2022(案)」

(山際議員) 次の議題、「骨太方針2022」について、資料3にあるように、総理から諮問をいただいている。なお、骨太方針の副題については、総理と御相談をして「新しい資本主義へ～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済を実現～」としている。

それでは、骨太方針の答申案について、黄川田内閣府副大臣から説明する。

(黄川田内閣府副大臣) 資料4-1、骨太方針について、前回の諮問会議での議論や与党での審議等を踏まえた主な変更点を説明する。

第1章を飛ばして、第2章の主な変更点を説明する。まず、4ページ、「人への投資と分配」について、趣旨を分かり易く、項目ごとに整理し直した。5ページ、2行目から3行目、少子化対策・こども政策が、「人への投資」としても重要である旨を記載している。6ページ、19行目から21行目、賃上げ・最低賃金について、足下の物価上昇について追記し、賃上げの重要性を明確化した。11ページ、10行目から11行目、DXについて、マイナポータルなどの記載を追記した。19ページ、17行目から22行目、観光について、国内需要喚起策、観光地・観光産業の再生・高付加価値化の記載を具体化した。

第3章、21ページ、2行目、外交・安全保障双方の大幅な強化が求められていること、26行目、防衛力を5年以内に抜本的に強化することを記載した。23ページの18行目と、24ページの1行目、エネルギー安全保障と食料安全保障について、それぞれの重要性に鑑み、項目を独立させて記載している。

第5章、36ページ、24行目から26行目、「令和5年度予算において、本方針及び骨太方針2021に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する」とした上で、「ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない」との一文を加えている。

(山際議員) ただ今説明のあった答申案について、民間議員から御発言をいただく。

(新浪議員) 3点ばかりお話を申し上げる。

日本経済の安定的成長の基盤には、国債への信認確保が不可欠。その中で、とりわけ経常収支がマイナスになってはいけぬ。むしろ、今の状況を反転させる必要がある。最近の円安基調を踏まえれば、リスクは高まっているのではないかと。しっかりとモニタリングして対応していく必要がある。

経常収支のトレンドを変えるためには、早急に手を打っていかねばいけない。ある一定の期間、円安はある程度続くという大前提において、日本へのFDI(Foreign Direct Investment)、対日直接投資について、今までも目標を持ってやってきたが、もっと真面目に取り組むべきではないか。とりわけ米国では、中国から資本をある程度引いて日本へ投資するというのを考えている方もいると聞いているので、是非ともスタートアップ、中堅・中小企業に対する投資ができる仕組みづくりをしていただき、最終的には中堅・中小企業が輸出も拡大できるようになれば良い。労働者の7割の方が中堅・中小企業で働いており、最終的には賃上げにもつながる。これを是非お願いしたい。

次に、エネルギーについて。化石燃料の輸入により、現状、年間20兆円規模の資金流出

が起きていると想定される。政府でも、長期的には、原発の活用を含め、エネルギー自給率を上げることに取り組んでいるが、この分野もスタートアップが大変活躍できる場。エネルギー分野には、ジェネックスやエネチェンジなどの有望スタートアップが出て来ており、その中で、例えば、デジタルを使うことによってエネルギー需給の最適化をできる技術を活用するといったビジネスが起きている。これらを早期に実装することによって、省エネを是非とも実現し、少しでもこの経常収支のトレンドを変えるべき。

最後に、食料面。世界で食料の争奪戦が激化している。国内農業の発展は極めて重要であり、こちら民間企業がもっと参入して、DXを活用して、生産性を上げて、食料の自給率を高めることができるように、取り組んでいただきたい。

(中空議員) 「新しい資本主義へ」という副題がついた、いわゆる骨太方針だが、重要なポイントが網羅され、内容は整理されている。関係者の方々には、ここまで来られたことに感謝申し上げたい。あとは実行あるのみということになると思うが、実行していくに当たって3点申し上げたい。

1点目は、データの整備。EBPMやPDCA、効率的な分配やコロナ予算の効果検証も、全てにわたってデータの整備はとても大事になってくる。これを徹底することがとても大事だということを強調しておきたい。

2点目は、成長の原資、源泉として、私はサステナブルファイナンスが大変重要だと思っているが、既にこの骨太方針は金融市場での関心も高まっており、150兆円超の官民投資やGX経済移行債についての問合せが増えている。ここまで来ると、「将来の財源の裏付けをもった」と書いてあることが一体どういうことなのかなど、様々詰めなければいけないが出てきている。ただ、時はもう既に待たないので、この機会を踏まえてどんどん進めていきたい。

3点目は、2025年度PB黒字化、財政健全化というのは、今こそ重要だということ。日本国債の信用が必要だということを経済議員がおっしゃったが、日本国債の信用を保つためにも、財政健全化の旗を下ろしてはならないと、今あえて申し上げたい。

(十倉議員) 今般の骨太方針の副題はすばらしい。経団連の方針と軌を一にするものでもある。

骨太方針の本文でも、経済財政運営を進めるにあたり、予算の単年度主義の弊害を是正し、GX(グリーントランスフォーメーション)の推進など、中長期の国家課題に計画的に取り組むことが示されたことも大変すばらしい。今後も財政健全化の旗を下ろさずに、経済あつての財政の考え方の下、官民が連携して計画的に重点投資を進めていくことが肝要。

一方で、今後の課題は、分厚い中間層の形成。税制や社会保障制度の議論を通じて、国民の安心を確保し、持続的な賃上げが個人消費に回るよう、適切な給付と負担の実現を目指すべき。これに関して2点申し上げる。

1点目は、税や社会保険料の議論には、現役世代の可処分所得への配慮や、年齢を問わず、負担能力に応じた拠出といった観点を踏まえる必要がある。

2点目は、マイナンバーの活用。1に、負担の前提となる経済力の正確な把握、2に、給付と個人の資産・所得情報との効率的な情報連携、3に、給付を速やかに行うための基盤整備といった事項をマイナンバーの活用を通じ速やかに実現すべき。現時点で対応が不十分な点があれば、迅速な対応が求められる。

(柳川議員) 骨太方針に関しても、大変しっかりとしたものをまとめていただき、関係者の方々に深く感謝する。

申し上げるまでもなく、経済・社会情勢はかなり大きな岐路に立っており、世界全体で大きな環境変化が起きている。こうした中で、課題解決を成長のエンジンに変えるという強い言葉で副題がついている骨太方針がまとめられたことは非常に大きな意義があると思う。その点で、細かい点を4点申し上げる。

1点目は、先ほども申し上げた「人への投資」。これが重要な成長のエンジンであることは間違いない。人への投資は、いわゆる企業収益を上げるだけではなく、一人一人の生活あるいは安全をしっかりと確保するためのものであって、ある意味で希望の種だと思う。国民の希望のために人への投資があるということがしっかりと書かれていることはとても大事。

2点目、先ほど新浪議員からもお話があったが、経常収支をしっかりと黒字にしていくことは非常に重要。輸出をどれだけ拡大していくか、対内投資を増やしていくか、輸出の中では食品産業は自給率を高める上でも非常に重要なところだと考える。

3点目、こうした大きな変革の実現にはやはり財政的な対応も必要だが、残念ながら全てのところに大盤振る舞いをするというわけにはいかないの、大事なところにしっかりと政策を対応させて、成果を出していくことが改めて求められる。そのためには、ずっと申し上げていることだが、EBPMの促進や、アウトカムベースの政策評価をして、しっかりとしたワイズスペンディングをしていくこと、それから短期にあまりにとらわれずに、中長期的な視点に立った政策プランニングが必要だということは改めて強調したい。

最後に、先ほど中空議員からもお話があったが、経済を活性化させて、しっかりと財政を健全化させていくことは、とても大事なこと。前回申し上げたが、財政が健全化しないと、国民の安心の基盤がゆらぐ。それから、財政の赤字がどんどん膨らんでいくと、結果として将来の政策の選択肢が狭まってしまう。そういう意味では、これからの未来を考える上では財政健全化の旗を降ろさずに、しっかりと実現させていくということが重要であることを改めて強調したい。

(山際議員) それでは、お手元の案を経済財政諮問会議として答申することを決定したいと思うが、よろしいか。

(「異議なし」と声あり)

(山際議員) それでは、本案を答申として決定する。

ここで議論を終え、プレスが入室する。

(報道関係者入室)

(山際議員) それでは、総理から締めくくり発言をいただく。

(岸田議長) 本日は、「新しい資本主義のグランドデザイン・実行計画」と「骨太方針」について、取りまとめていただいた。

「新しい資本主義のグランドデザイン・実行計画」については、市場で解決できない外部性の大きな社会的課題について、この課題をエネルギー源と捉え、新たな成長を図る。スタートアップやグリーントランスフォーメーション、資産所得倍増について、複数年度にわたる具体的なプランを本年中に策定し、実行する。

本年の骨太方針では、機動的なマクロ経済運営によって経済回復を実現しながら、「新しい資本主義」の実現に向けた計画的で重点的な投資や規制・制度改革を行い、成長と分

配の好循環を実現する、岸田内閣の経済財政政策の全体像を示している。

次は実行である。参議院選挙後に、本日決定した方針を前に進めるための総合的な方策を具体化し、エネルギー分野を含め、経済社会の構造変化を日本がリードしていく。

同時に、国際環境の変化にも対応していかなければならない。我が国を巡る安全保障環境は一層厳しさを増しており、我が国が自らを守り抜く安全保障体制の整備を加速する必要がある。

5月23日の日米首脳会談では、私から、日本の防衛力を抜本的に強化し、その裏付けとなる防衛費の相当な増額を確保する決意を表明し、バイデン大統領から強い支持を得た。

今般閣議決定する骨太方針に盛り込まれているとおり、国家安全保障の最終的な担保となる防衛力を5年以内に抜本的に強化する。将来にわたり我が国を守り抜く防衛力を構築すべく、様々な取組を積み上げていき、その上で、必要となるものの裏付けとなる予算をしっかりと確保していく。その際、内容、金額、財源の3点セットで議論を行っていく。

具体的な計画については、本年末に策定する新たな国家安全保障戦略等として改めて内閣として閣議決定する。そして、その閣議決定を基に、令和5年度予算を編成していく。

これらを含め、本日決定した方針に盛り込んだ様々な政策をしっかりと進めていく。

(山際議員) それでは、プレスの皆様、御退室をお願いします。

(報道関係者退室)

(山際議員・新しい資本主義担当大臣) 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」については、本日この後、持ち回りの新しい資本主義実現本部において決定し、その上で、持ち回りの臨時閣議で決定する。

また、骨太方針2022についても、本日この後、持ち回りの臨時閣議で決定する。以上をもって、本日の会議を終了する。

(以上)